

南信州地域交通問題協議会

平成20年3月25日設置
平成21年3月4日連携計画策定



概要

南信州地域は、起伏の激しい広大な面積に集落が各地に分散しており、急速な少子高齢化の進展が予測される地域である。また、自家用自動車の普及等によって公共交通の利用者は年々減少傾向にあり、当地域で唯一路線バスを自主運行している信南交通(株)が、自主運行路線からの撤退を表明している。

公共交通を維持していくことは、地域の持続的発展、圏域住民の生活確保、交通不便者への対応、環境保護の観点等から当地域における重要な課題となっている。このため、1市3町10村が一体となり、当地域の公共交通を「南信州公共交通システム」として再構築し、関係する市町村との役割分担のもと、当協議会では平成21年4月から基幹路線における実証運行を開始した。

○路線バス(阿島循環線、駒場線)、乗合タクシー上市田線の運行

飯田市と周辺町村とを結ぶバス路線の阿島循環線、駒場線並びに乗合タクシー上市田線を実証運行し、高齢者・高校生などの通院、通学の確保を図るとともに、利便性向上による潜在的需要の喚起を促す。

○南信州公共交通システム認知度向上事業の実施

公共交通を体系化し、運行上統一されたルールのもと、交通事業者や各自治体が公共交通の運行等を行う「南信州公共交通システム」を、広報等によって広く周知し、自家用車主体から公共交通主体へと生活様式の変化を促す。

○公共交通の利用促進・利用転換事業の実施

対象、目的別の時刻表の作成や利用促進啓発イベント等の実施により、利用者拡大を図る。

学生通学定期券(上限1万円/月)を発行し、学生の利用促進と保護者への負担軽減を図る。

○各協議会及び市町村など関係機関が連携した既存公共交通の改善に係る事業の実施

公共交通をより利用しやすいものとするため、南信州地域内の各協議会や市町村などの関係機関が連携し、基幹路線と准基幹路線及び支線との効率的な接続を図る。

南信州公共交通システム(体系化)のイメージ

